

雲龍図 | OHGUSHI

Background

1200年もの間、地域の人々に愛され続けている岡山市「最上稲荷山妙教寺」。ここで古来より祀られる、水を司る「八大龍王尊」を水墨アーティスト OHGUSHI が描き上げました。



Idea

OHGUSHI は、水を司る神の姿を、人々に恵みを与える「清らかな水」そのもので表現したいと考え、日本の古典的な様式美を踏襲せず、類例のない、新たな様式美へと更新させました。



本作は、日本の伝統的な書道具を使用し、約10mに渡り緻密な描写を重ねて描かれています。



一方の、背景の雲や嵐は、自然現象として表現すべく、墨を流動的に滲ませる技法が使われています。それにより、具象と抽象が共存した、雄々しく躍動する作品が完成しました。



「雲龍図」| 横 8 面 | 全長：横 9.87m × 縦 1.83m | 制作期間：約 6 年



作品右側の嵐は現在の困難な社会情勢（コロナや紛争）を表現し、一方で、作品左側の空白は光を表しています。これは「全人類が明るい未来へ向かうように」という作者の願いを込めています。この襖絵は、永続的に年に一回公開される予定 100 年、200 年と受け継がれることでしょう。